



# ゆんたく

2023年4月  
都島  
Vol.36

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

コロナ禍を経て見えてきた各施設の課題・これからの目標

比嘉正子地域貢献事業研修センター2F「絵の本ひろば」開設

本部からの報告

社会福祉法人 都島友の会



# 『ポストコロナ時代に向けて』 ～人と人とのつながりを取り戻すために～

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

気がつけば早や3月になりました。寒く冷え冷えとした空気がいつしか柔らかく緩み、草木は芽生え、うらかな春を迎えようとしています。  
令和5年(2023年)3月1日、創立92年を迎えたこの日は新型コロナウイルス感染拡大から4回目の春を迎えることになりました。

コロナ禍もようやく落ち着きを見せ、本年5月8日には感染症として重症化リスクや感染力が高い2類相当の扱いから、季節性インフルエンザと同じ5類に移行されます。この3年、世界は大変つらい時期を過ごしました。この間、世界で多くの方々が新型コロナウイルスに罹患し、亡くなられました。心からご冥福をお祈りいたします。渡航や人の移動、人の集りも制限され、そのため旅行、イベント、音楽会、果ては外食に至るまで大きな影響を蒙ることになりました。

都島友の会でも私たちの暮らしは一変、日常の活動や行動が大きく制限されるなど、その影響はとて大きなものでした。高齢者施設ではクラスターや感染防止の徹底のため、入居者の外出が出来なくなり、面会も大きく制限されるなど、大変なご不便をおかけすることになりました。また児童施設では行事やイベント、日常の活動一つひとつに三密の壁が立ち上がり、これまで当たり前だと思われたことが出来ない中、それでも職員たちは感染防止に努めながら、日々、様々な工夫を凝らし、ところをひとつにして教育・保育を行ってまいりました。もちろん、保護者や地域の方々のご協力やご支援があつての賜物です。本当にありがとうございます。

コロナ禍でこれまで空気のように当たり前であったことが当たり前でなくなるというかつてない経験、とりわけ大きかったのは、ソーシャル・ディスタンシングに現れてまいります。…」

岸田首相の記者会見で語られたこの危機感、国難とまで表されたその思い、まさに我が意を得たり、です。

## 異次元の少子化対策を 不退転の決意で今こそ

さて現在の日本は、公的債務や財政問題、高齢化と社会保障など、多くの難題を抱えています。中でも重要なのが「急速な少子化」です。この3月17日、岸田首相の記者会見の文章を引用します。

「…我が国は歴史的転換点にあり、これを取り越える最良の道は「人への投資」だと申し上げてきました。…その大切な「人」ですが、2022年の出生数は過去最少の79万9,700人となりました。僅か5年間で20万人近くも減少しています。2030年代に入ると、我が国の若年人口は現在の倍の速さで急速に減少することになります。そのまま推移すると、我が国の経済社会は縮小し、社会保障制度や地域社会の維持が難しくなります。2030年代に入るまでのこれから6年から7年が、少子化傾向を反転できるかどうかのラストチャンスです。子どもは国の宝です。この国難に当たって、政策の内容・規模はもちろんのこと、社会全体の意識・構造を変えていく、そのような意味で、次元の異なる少子化対策を岸田政権の最重要課題として実

昭和22～24年	第一次ベビーブーム 出生率 4.32 (2696638人)
昭和46～49年	第二次ベビーブーム 出生率 2.14 (2091983人)
平成元年	出生率 1.57 エンゼルプラン (119万人)
平成12年	新エンゼルプラン (100万人)
平成17年	出生率 1.26
平成27年	新制度 (100万人切る)
平成30年	(921,000人)
令和3年	最低出生数 (81.1万人)

わが国では1970年代前半に2000万人程度であった出生数が、2021年には約81万人に減少しています。この流れが継続すると今後10年程度で出生数が70万人を割り込む可能性もあり、2040年には60万人割れ、2052年には50万人割れとの推計もあります。人口減少を直ちに反転することはもちろんできませんが、少子化のトレンドの転換が遅れば遅れるほど、人口減少は加速します。岸田首相が述べられたとおり、本日に今回が最後のチャンスかもしれない、政府は不退転の決意で頑張つてほしいと願います。

「子どもは国の宝なのだ」。半世紀以上も前、戦争に敗れ、戦後復興の日本の中で法人の創設者比嘉正子が同じ言葉を切々と訴えていたのを思い出されます。子育ては親だけが担うことだと思っていまいませんか？

よって、毎日顔を合わせるのが当たり前だった人たちと会ったり集ったりすることがとても難しくなりました。会っていないでしょうか。そのことで人や社会と自分が直接つながっているという感覚や経験が希薄に、またその重みや意味も変わっていったのではと思います。

コロナ禍を経て、社会が大きく変わっていく可能性が指摘されています。たとえば、本格的なデジタル社会の到来。パソコン画面の「向こう」と「こちら側」、いわばバーチャルな世界でコミュニケーションを取ることが日常となり、人と人との関係、そのつながりのあり方もまた変化していったようにも見受けられます。リモートでも十分に仕事ができ、移動にかかる無駄な時間が減る一方で、直接でなければ得られない人とのつながりが失われることが懸念されています。

Withコロナ、Afterコロナの時代に向けて、私たちはこれから時代とどう向き合い、どのように対していけばよいかと考えます。

私たち法人は、これまでから人と人とのつながりについてのほか大切にしてきました。子どもたち、高齢者、保護者やご家族、そして地域の方々…。そして様々な事情で人との関係が断たれ、社会から零れ落ち取り残された人々に向けて、本来あるべき人とのつながりを取り戻すこと、その支援をすることが私たち社会福祉事業をする者の大きな使命だと考えてきたからです。

今回の危機では、富裕層から貧困層まで、世界中の人が等しく感染リスクにさらされるなか、感染は他人事ではなく、社会に暮らす私たちひとり一人の問題だというある種の連帯感が生まれ、同時に多くの人が「個」で生きることに厳しさや寂しさ、弱さに気付くきっかけになったと思います。個人は一人一人では無力です。一人では幸せを感じることも難しい。だからこそ、あ

うではありません。子どもを育てることは未来の日本を支える人材を育てることです。そのために未来への投資は今しかない。未来の支え手を育てるのに財源を惜しんではならない時代です。子どもの成長を社会全体で支え、みんなで喜び合います。社会の一人一人、みんなが主役なのです。私たち一人ひとりがそのように意識を変えていきましょう。もちろん、私たち法人も、皆さまが子どもを安心して育てられるように全力で支援を行う覚悟です。

最後になりましたが、都島友の会創立90周年にあたり、多くの皆様方から御厚志をいただきました。皆様方の貴重な御厚志は、法人の施設の維持と、更なる地域社会への取り組みに使わせていただきます。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



私たちはこれからも、保護者の方、職員、そして地域の方々と共に子どもたちの成長を大切に見守っていきます。

新発見!!  
新たな挑戦!!

研修の感想は?

思い出画では子どもたち自身がより場面を思い出しやすい声掛けやイメージの引き出し方を学ぶことができました。実際に使用した用具や写真を提示したりと環境設定の大切さも改めて感じることができました。この研修で学んだことを活かして子どもたちのアイデアを引き出し豊かに表現する気持ちに寄り添いながら素敵な作品と一緒に作ることができました。

実際研修に参加してどうだった?

この研修でたくさん質問し、先輩職員の教育・保育を覗くことで実践できる内容を学ぶことができました!

思い出画

「思い出画を描く際、子どもがイメージしやすいように声掛けを工夫するにはどうしたらいいか?」と職員からの声を聞き、実際に先輩職員の制作の様子を見学する機会を設けました。

先輩職員の活動の様子を覗いてみよう!

コロナ禍をはじめ、この数年間、感染状況に合わせて、様々な環境の変化から行事の見直しを行い、また教育・保育をどのように行っていくのかなど、私たちは職員同士で話し合いながら進めてきました。その中で新たな気づきや発見と共に、以前よりもより良い形で進めることが出来た事も数多くありました。

新たな改革・発見、そして今後の私たちの目指す教育・保育とは? 幼保連携型認定こども園 都島児童センターの令和4年度の歩みをご紹介します。

研修後の実践

リトミックあそびの実技研修で、子どもたちがより一層楽しめる方法や工夫を知ることができました。その研修で学んだことを日頃の保育に取り入れることで発表会では子どもたちと一緒に表現あそびを楽しむことができました。

リズムあそび

合奏の指導方法

気づき、発見、さらなる改革。

目指すテーマは、「進もう! 新時代へ!」

様々な取り組みの中で  
職員の特技も発見!

職員主体での新しい改革や問題解決を行っていき、質の向上や業務の効率化にも力を入れ、職員自身も心と体をリフレッシュ!より子どもたちと向き合い一緒に楽しめる教育・保育に力を注ぐことができました。

新しい取り組みの中で、隠れていた職員の特技も発見!なんてことも!

その特技を生かし音楽コンサートや誕生会、行事の出し物として子どもたちの前で披露し「先生たちすごい!」と子どもたちも職員同士もびっくり!

その後、子どもたちにも良い影響となり「私も先生みたいに演奏したい!」と意欲的に活動に参加する姿が見られたり、発表会では全体の前でも自信を持ち発表するきっかけになりました。

このようにどの活動も職員のアイディアにより楽しく新しく発展していきました。

ピアノの先生による音楽コンサート♪

新体操部で経験したリボンを使った演技を舞台上で披露☆

サクソが得意でバンド演奏を披露しました☆

歌が得意☆美声を響かせ、クリスマスメドレーを歌いました☆

体育活動参観

保護者の方に子どもたちの様子を伝えたい!

新型コロナウイルスの拡大により、保護者の方に園内に入ることや控えてもらっていた為普段の子どもたちの様子を知らず知らずにはどうしたら良いだろう?と職員間で話しあいHPの動画数を増やしたり、体育活動の様子を参観という形で見てもらい保護者の方から「子どもたちの普段の姿を見ることができて良かった」と大好評でした。

どこが難しい? 問題を解決するには? みんなに聞いてみよう!

先輩職員による音楽研修

子どもたちにも分かりやすく、うたの歌詞の意味を伝える方法、子どもたちが楽しみながら行えるリズムあそびを保育の中でどのように取り入れたら良いのかを知りたい。」と職員からの声を聞き、先輩職員が行っている指導方法を伝え、職員と子ども役に分かれリズムあそびや合奏を実践形式で行いました。

複数の職員が子どもたちと関わり教育・保育を行う中で統一した保育を行うにはどうすれば良い?

新発見!!  
新たな挑戦!!

Pick Up  
Autumnフェス

毎年、秋に保護者会主催のバザーを地域を巻き込みながら開催していましたが、コロナ禍で2年間開催できずにいました。しかし、今年度は段階的な解除を踏み、2部制でAutumnフェスとして開催！「例年通り」ではない分、保護者会の皆様と時間をかけて話し合い、たくさんの方のアイデアと楽しさが詰まった行事となりました。

保護者会の皆様と『子どもたちのために』と意見交換をしながら一緒に行事を考えていく中で、改めて感じた“様々な声に耳を傾けることの大切さ”。心の距離が縮まり嬉しく感じました♡



イレギュラーなことが多かった分、『PDCA』をより意識しながら行っていた教育・保育・行事でしたが、全てがうまくいったわけはありません。『報告・連絡・相談』がうまくいかず、頭を抱えたこともありましたが、まずは職員間のコミュニケーションの改善から見直すことに！チーム力と保育力のアップを目指していきます。

1日の職員体制の確認

各クラスより伝達事項

声に出す習慣を身につける

メモをとる習慣を身につける

朝ミーティングを実施！



コロナ禍で様々な工夫をしてきたからこそ、行事の意味や子どもたちの育ちに寄り添う保育を心掛けたいと改めて感じました。その中で新たに覚えてきた課題にもしっかりと向き合いながら、子ども、保護者、職員みんなで友渕ストーリーを創っていきます。

コロナ禍で見つけた  
今後の課題

みんなで創ろう  
友渕Story

コロナ拡大防止対策として保育が制限されていましたが、徐々に緩和され、保育の幅が広がりつつあります。『ピンチをチャンスに！』と様々な工夫をしながら行ってきた教育・保育。今年度も様々な経験を通して、子どもたちのキラリ☆スマイルが輝きました！

秋

エンドウ豆やトウモロコシの皮むきや夏野菜の収穫、干し柿作りなど、季節にあった食育を楽しみました



保護者会主催 Autumnフェスの開催



入園式☆元気に新年度がスタート！



プールに感触あそび、スイカ割りなど、夏ならではのあそびを満喫！



夏



1部制復活！運動会



お散歩遠足にレッツゴー！



もちつきに挑戦！



観客動員3年ぶり！感動の発表会！



年長児ビッグイベント★夏フェス



ゆず湯でホッコリ

交通安全教室に参加☆正しい交通ルールを学びました！





コロナ禍前は当たり前のように異年齢児交流がありました。年下のクラスの部屋を訪ねし遊ぶことを楽しんでいた年上の子どもたち。0歳児の部屋には園庭に面した大きな掃き出し窓があり、園庭から室内に入り遊ぶこともよくありましたが、その光景もコロナ禍の3年間は数回あっただけでした。感染症が落ち着くにつれ、『交流を持つとう』と職員間で話し合いをし、戸外に出る時間を互いに決めて双方ができるあそびを提案しました。当たり前だったことが当たり前でなくなったこの3年間。これからももちろん状況に合わせ感染対策を行いつつ、異年齢児交流の機会を一日でも多く、以前のように好きな時に自然と交流が持てるようにしていきたいと思えます。子どもたちは自然のままに関わる中で、職員は意図的交流を深め、考察し、心の成長に繋がるような教育・保育をしていきたいと考えています。



## 心の育み

## 大阪市都市整備局 コンクリートブロック塀対策工事



屋外時計も新しくなりました 工事を終え業者による点検終了後…みんなで祝い会を開催!毎日にぎやかに遊んでいます。

園庭を囲っていたブロック塀がフェンスになりわくわくとりでは新しい遊具スペースが増えてリニューアルされました。工事期間中は保護者・地域のみなさまにはご迷惑をおかけいたしました。

Before

早く園庭で遊びたいね

After

お祝いのテープカット

『日本保育協会保育実践研究』奨励賞受賞  
今回、私たちは創設以来続けてきた縦割り保育をもう一度自分たちで見つめ直し、よりいっそう理解を深めることを目的に実践研究をし、その成果を『社会福祉法人日本保育協会の保育実践研究』に応募することにしました。  
研究のタイトルは「ペア活動を通して育まれる心の成長」。縦割り保育の中で4歳児と5歳児がより深く関わりを持ち、互いに刺激し合える関係を築くには、クラスごとの活動だけでなく、縦割りのペアを作り一緒に過ごし活動することで、いっそう心の成長が育まれるのではないかと考え、具体的には4歳児と5歳児の2人組のペアをつくり、ペアを4組合わせてチームを組み、『ペア』や『チーム』単位での活動をする事にしました。そしてこのような関わりが子どもの育ちとどのように関係しているかを観察し、その結果をまとめるというのが研究の目的でした。

実践研究を行った中で、子どもたちは異年齢児とより深く関わることで年下の子にとつて年上の子は目標の象徴となり、年上の子は年下の子にやさしく接する。そしてその中から『相手を思う気持ち』『優しさに触れた時の気持ち』『人の役に立ちたいという思い』が子どもたち自身から生まれ、そのことが自ら考え、自発的に行動することに繋がりが、さらに互いの違いや個性を受け入れ、子どもの心が大きく成長していくことに寄与しているとのうれしい結果やまとめになっていきました。

『縦割り保育』を見つめ直す  
私たちは0歳児から5歳児までの子どもたちを預かる施設として、法人では最も小規模な園です。創設以来、その特徴を活かそうと、4歳児と5歳児が一つのクラスで過ごす縦割り保育を行ってきました。異なった年齢の子と一緒に遊んだ

り学んだりする縦割り保育は周りへの思いやりや他者から学ぶ心が育まれ、互いに成長することを目標にしてきました。  
\*異年齢の子どもに関心を持ち、協力しながら協調性や自主性を養う  
\*幼い子どもへの思いやりの心を育て、豊かな心を育む  
\*年上の子どもと関わり、憧れ、模倣し、発達の助長を図る



## 実践エピソード

### 当番活動

episode 毎朝9時20分から始まる朝の体操当番活動の内容は  
・全館 放送で一日の予定や給食のメニューを紹介  
・30曲ある体操の中から体操を選ぶなど



2月中旬より4、5歳児のペアで行うようになりました。これまで5歳児が放送しているのを傍で見ていた4歳児は実際にマイクを向けられると緊張する姿も見られますが5歳児が耳元で放送する内容を教えている姿はなんとも微笑ましい場面です。

### episode 2 恥ずかしがりのAちゃん

自分から他の年齢の友だちと関わるのが苦手なAちゃん。しかし、ペアの5歳児のBちゃんとの関わりが始まると嫌がることなくお世話してもらったり教えてもらうことを喜んでいました。そして、Aちゃんが5歳児になり、4歳児のCちゃんとペアを組むことに。「Bちゃんがいっぱい優しくしてくれたから自分もしてあげたい」と話す姿に年上の友だちに優しくしてもらった経験により、思いやりの気持ちが芽生えたことを実感した瞬間でした。

### episode 3 0歳児の園庭遊びの支度の手伝い

0歳児が部屋から出てくると自然と集まる年上の子どもたち。話しかけながら靴を履かせる姿は慣れたものです!



LaQ教室



秋まつりの収益で  
楽しい企画が盛りだくさん!

バルーンアート



シャボン玉ショー



都島中央公園グランドをお借りする際には、中野  
連合第6町会副会長様はじめ、地域のみなさまの  
ご厚意で、いつも快く対応してくださり、改めて地  
域の中の園であることを感じました。

科学マジックショー



秋まつり開催!



新型コロナウイルス感染症の発生から丸3年が経ちました。それに伴い、かつての園の姿や通常であった園の活動を知らない、経験したことのない園児や保護者、そして職員が増えてくるようになりました。  
さまざま制限下の中、それに比類してコミュニケーション不足や不都合を少しずつ感じることも出てきました。以前なら直接お話しできたのに、以前はお迎えの時に様子が分かったのに。以前は...と、これまで通りにいかないことに、もどかしさを感じたこともあったように思います。

保護者会活動を通じて

「コロナ禍を経験して見えて来たもの」

さて、令和4年の春。  
「コロナのお付き合いはまだしばらく続きそう...、でも何に気をつければよいか、何がポイントかは徐々につかめた、分かってきた」といった状況の中。  
子どもたちに少しでも楽しいことを経験させたい、保護者同士もつながりたい、園と保護者がしっかりと結びつき、もともとして子どものことを一緒に考えたい。そして少しずつ以前の行事を復活させたい...。コロナ禍の中、出来なかったこと、出来ずに溜まっていた想い、そんな園と保護者の方々の思いが合致!

保護者会主催行事の計画が始まりました。  
企画1 夏祭り 企画2 バザー  
企画3 冬にも何かイベントを...  
ところが、7月の第7波で夏祭りの準備ができず中止に。...さらに、バザーの準備も間に合うかどうか、という事態に。  
この時の気持ちを保護者会会長さんに尋ねると「もう、この後どうなるんやろう...と不安で心がいっぱいになって」とのことでした。

移動動物園



9月以降は、〈濃厚接触者の特定を求めない〉など、社会の対応が変わり、ようやく保護者会イベントも進めやすくなり、バザーを秋まつりに変更して行うことができました。  
10月8日 「秋まつり」の開催 以前の活動に比べると収益はわずかですが、それでも何ができるかを保護者会の皆さんが考えてくださり...  
12月15日 「LaQ教室」  
12月20日 「バルーンアート」  
1月11日 「シャボン玉ショー」  
2月28日 「科学マジックショー」  
3月7日 「移動動物園」  
どれも楽しく、珍しく、興味深くて、子どもたちが笑顔でいっぱい、保育者も笑顔でいっぱいになりました!!

やっぱり子どもたちの笑顔が一番！子どもが笑顔になれば保護者の方も保育者も笑顔になり、さらに子どもはもっともっと笑顔になる。そう、笑顔は伝染します!!  
コロナのために業務が増え、楽しいことも制限され、と、ともすればマイナスな部分に目が行きがちですが、視点を変えれば、気持ちも見えてくる世界も変わります。  
この一年、保護者会活動を通じて見えて来たもの、大切だと気付かせてくれたもの...。子どもたち、保護者の方々、そして地域、もちろん親子のつながり...。人と人との絆がいかに大切か、いかに繋がりが、人に、安心や信頼をもたらすものなのか...。繋がっているからこそ、私たちの保育の目指すところはみんな同じなのだということを実感し、お互いをあらためて見つめ直すことができる。コロナのおかげで学んだことの一つなのかもしれません。保護者会のみならず感謝です!  
さあ、令和5年度へ向けて。みんな一緒に進んでいきましょう!

季節や文化、  
伝統とつながる

都島友の会が大切にしている一つは、「温故知新」。昔から伝わる大切なことはそのままに、新しくすぐれたものなら率先して取り入れ、教育・保育を行っています。

5月『端午の節句』、7月『七夕』、11月『七五三詣り』、12月『餅つき』、2月『豆まき』、3月『ひな祭り』と1年を通して古くから伝わる日本の伝統的な行事を経験し、成長してほしいと思っています。また行事だけでなく、『こま回し』や『けん玉』など伝承あそびにも触れられるように、2歳児〜5歳児にはお年玉として、『こま』を渡し園でたくさん遊んでから持ち帰り、0歳児、1歳児には『紙風船』や『吹き戻し』をお家で保護者の方と遊んでもらえるように渡しています。子どもたちが大人になった時、「節分には、鬼がきて豆まきしたな。」や「こま回し、みんなと競争したな。」など思い出してもらえたら...という思いも込めています。



けん玉パフォーマンス  
大賀さんによる  
けん玉ショー

私たちは、様々なつながりの中で、多くの人たちの支えをいただきながら、園児たちと共に過ごしています。コロナ禍で人と人との距離に少し開きが生じたこの3年間、つながりを持ちたくとも難しい日々が続きました。しかし今後はもっと近く、もっと深く、もっと緊密に...保護者の方々や園児、地域とのつながりを今一度大切にしながら、よりいっそう地域に根差した認定こども園を目指し、コミュニケーションを図っていききたいと考えています。

保護者とつながる



保護者会主催  
講習会



ひまわりの郷の  
皆さんの前で  
発表会お披露目会

規模を縮小して保護者会主催のバザーを開催。ゲームコーナーや食べ物コーナーを設け、子どもたちはもちろん、保護者の方同士の交流の場にもなり、笑顔溢れる催しとなりました。また、5歳児のみ保育参加を再開。普段の教育・保育を保護者の方にみていただくことができ、少しずつコロナ禍前の取り組みも戻りつつあります。昨年12月には都島第二乳児保育センターの保護者の方に講師になっていただき、大人のメンタルヘルスについてお話をいただきました。私たちと保護者の皆様との交流も少しずつ増えています。



保護者会主催 ふれあいバザー



つな  
が  
り  
を  
大  
切  
に  
し  
た  
い  
。

多世代とつながる

法人内の特別養護老人ホーム「ひまわりの郷」は当園と隣接する施設で、その為、利用者の方々の交流を頻繁に行っています。2月には当園のホールにお招きし、5歳児の日舞や遊戯、劇などの発表を見ていただきました。ダンスの際は事前にお渡ししたペンライトを片手に一緒に音楽に合わせてくださり、園児の合唱では「ふるさと」の歌唱に合わせて指揮棒のように振っていただきました。中には歌声を聴いて涙ぐむ利用者の方もおられました。核家族が多い現代において、関わりが薄くなった高齢者の方々の交流は子どもたちにとっては貴重な経験であり、今後、さらに様々な形で交流を深めていきたいと思えます。また当園では縦割り保育を年2回行っていきます。異年齢の友だちと過ごすことで様々な刺激を受け、思いやりや人と関わる力を身につけることを目標に行っています。

電車でGO!

もっと強く  
もっと深く  
もっと広く



地域のお祭り  
「ひがみやまつり」

東都島地域クリスマス会



クリーンアップ作戦の清掃に参加

ひがみや児童センターは昭和51年に、東都島保育園として開園しました。それ以来、長きに渡り地域の方々に見守られながら現在に至ります。東都島地域のお祭りに参加したり、3年ぶりに地域の互礼会にも参加させていただきました。コロナ禍で空白となっていた行事も、今後は東都島地域の皆様と改めて連携を図りながら、地域に愛されるひがみや児童センターで居続けたいと思えます。

社会とつながる

5歳児が約3年ぶりに六甲山スノーパークへバスに乗って雪すべりに行きました。子どもたちも職員もバスに乗って遠足へ行くという経験が薄い中、園長、主任、引率職員でしっかり事前打ち合わせを行い、無事に雪すべりを楽しむことができました。また、保育士養成校の大阪こども専門学校にご招待いただき、学生が演じる園児向けの演劇を観に、メルパルク大阪まで電車に乗って行きました。3月には、2〜4歳児がバス遠足で天王寺動物園へ行きました。それまでは当たり前に行ってきた行事ですが、3年が経つとやはり目には見えないところで影響が出ていることを再認識しました。少しずつですが、コロナ禍前のように遠足に出かけたり、様々な景色を観て、たくさん経験が得られれば良いなと思っています。



5歳児 雪すべり



遠足

地域とつながる



# 「丁寧な保育、丁寧な対応」って、 どんなこと? それは誰のため?



「孤立育児」になりがちでした。私たちは、『単に保護者の子育ての負担を軽減』するだけでなく、『保護者と共に足並みを揃え、子どもの健やかな成長を促し見守っていくこと』を大切に、そのためにも情報を丁寧にお伝えすること、情報を出来るだけ共有することを心がけています。またご家庭での育児の悩みや不安を少しでも軽減してもらえらるよう、保護者同士の語り合い交流の機会を少しずつでも広げていきたいと考えています。

「コロナ禍の中、「集団」経験の乏しい子どもたちは多くの不安を感じている様子でした。その中で「楽しい」という気持ちはもちろん、「怒る」「泣く」など、子どもたちのあらゆる感情に対し丁寧に向き合い、自分の想いを受け止めてもらえるとの経験を繰り返す中で、信頼関係を築き、子どもたちが安心して過ごせる環境になるよう努力を続けてきました。就職で例えるなら乳児期はいわば最初の「試用期間」。子どもたちは「採用側」で、私たち職員は「信頼できたのでこれから一緒に過ごしましょう!」と本採用に至るまで試される側なのです。

保護者の方や近隣の皆様に安心していただくには、さらなる努力が必要です。昨今は望ましくない保育対応のニュースが続き、きつと様々に不安に感じられている保護者も少なくはないはずです。送迎時やおいたちの記(保護者との連絡帳)での情報共有だけでなく、HPや貼り出し、行事などを通して、子どもたちの日々の生活や保育を直接感じて安心していただけるように極力意識してきました。HPに職員の絵本読みを上げたら、ある0歳児の子どもはそれを見ながら毎日のように家庭で見せてくれた様子。この子ひとりで動画再生回数のUPに貢献して下さるよ!と嬉しい声も届きました。一つひとつは些細な活動ですが、《いつ、どこから、だれに、どんなふう》見られても(聞かれても)、私たちの保育の「芯」をお伝えできる環境をつくりたいと思っています。

ずっと以前のこと・トイレトレーニング中、子どものタイミングが合わず、トレーニングパンツ(布地が厚め)を数枚濡らしてしまいました。「丁寧に」水洗いしてしっかり絞ってお返ししたところ、「布地が厚いから水の吸収も多く持ち帰りがとても重い。濡れた部分だけサッと流すだけがいい」とのこと。保護者の方にとってそれは「要らぬ丁寧さ」だったようでした。一方、ある子どもが活動中に急に顔が赤く腫れ、発疹発症、かゆみを伴う状況。すぐに冷やして、10分毎に写真撮影、体温測定、看護師の観察。30分後には発疹もすっかり消滅。すべての経過を書面にして保護者にお渡ししたところ、その後医院で受診した際、その記録が「役立つ丁寧さ」につながったようでした。

## “丁寧に向き合う” ~いつもここから始めてきました~

### 近隣住民の方との 立ち話で...



「朝夕に大きな声の挨拶が聞こえるわ~」「えっ?!もしかしてご迷惑ですか?」「違うよ、あの声で元気もろてんねん。あの声聞いたら保護者の人も仕事がんばれるわ」  
これからも私たちの「丁寧な保育、丁寧な対応」が少しでも皆さんの笑顔と元気を運べるよう、「丁寧さ」の向こうにあるその先にまで、全職員で頑張っていきたいです。

子どもたちを中心にして、職員、保護者、そして地域の人々、私たちは互いに弧を描くようにその輪の中で暮らしています。日々の挨拶はもちろん、行事前の詳細連絡や勤務感謝訪問など、子どもたちの参加も含め、その輪が緊密に、そしてさらに広がる活動を丁寧に続けようと思っています。



新発見!!  
新たな挑戦!!



コロナ禍・コロナ禍・そこには  
変わらない保護者の方々、子どもたちの笑顔があります。  
心と心がつながる保育を大切に、これからも職員一同、力を合わせて取り組んでいきます。



この一年、コロナ禍だけでなく夏の猛暑など、時々の状況の中で形を変えて日々の保育や行事を行ってきました。「〇〇だからできない」ではなく「(形を変えて)やってみよう」と職員のアイデアがキラリと光った保育内容。しかし、あらためて思い返すと特別なことを行ったのではなく、これまで行ってきた保育を振り返ることでよりブラッシュアップしたことがかりでした。しかし視点を換え、見つめ直したことで気づき得たものもたくさんあります。

笑顔はつづくよどごまで

心と心がつながる保育



この一年、大切にしてきたこと考えてきたこと

- ・ホームページでブログとしてクラスの様子を定期的にアップ！写真だけでなく動画もアップすることで、保育園生活により具体的なイメージを持ってもらえるように作成しています。またブログを配信することで保護者の方にクラスのお友だちを知ってもらい、そこから保護者同士のつながりが出来れば...と思っています。
- ・直接対応する際は丁寧に手短に対応できるよう心掛け、子どものエピソードを交えて伝えるようにしています。
- ・保育室だけでなく廊下や広いプレイルームを大活用！十分なスペースでのびのび遊べる環境をゲット。
- ・室内での水遊び・季節を感じる植物や昆虫たちの触れ合い♡
- ・体育遊具が大活躍！園内の環境も利用して、1階事務所から5階屋上まで階段を行ったり来たり。他クラスのお友だちも応援してくれます。



お正月バージョン!

玄関に入ってすぐの水槽は職員のアイデア box。毎月、様々な趣向を凝らして皆様をお出迎えています。「〇〇に変わってる～」など親子での会話も弾んでいます。



コロナ禍で見つけた  
今後の課題

そっと・もっと寄り添う保育・子育てを大切に

(これからの保育・子育て支援として...)

コロナ禍で、空気感染や接触感染のリスクを考慮し進級先であるひがみや児童センターの児童との接点が少ないと感じてきました。ただ、子どもにとって、お互いから受ける刺激は何物にも代えがたいと考えています。今後は、この経験から得たことを大切に、お互いの感染状況を考慮する点は変わらず、『交流と経験』をテーマに取り組んでいきたいと考えます。

地域の方には、一時預かり保育事業「すくすく」や地域子育て支援センター「のびのび」を通して子育てに寄り添ってきました。ただ、より多くの方に知ってもらおうといった面では、地域イベントの中止や屋上解放時、戸外(散歩)での園児との交流が減るなど、コロナ禍前と比べると難しく感じています。直接の交流が難しいのであれば、HPをより活用し、家庭でも簡単に作れる手作りおもちゃの紹介や、園前の掲示板に掲載するなどの試みも考えています。「のびのび」では、インスタグラムを活用していることで、のぞいてもらえたらと思います。



のびのびのピコスタ QRコード

質問

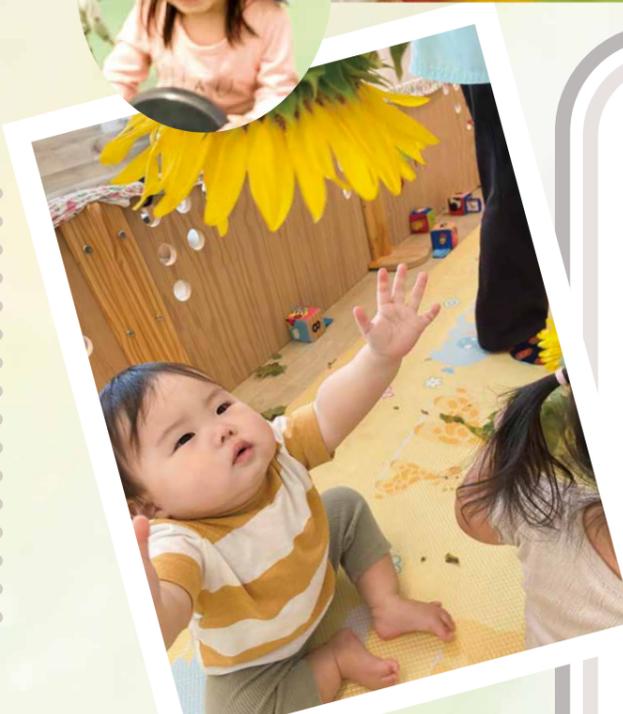
ホームページに

限定のついたブログや動画があるのはなぜですか？

限定は、お子様の保護者の方々、おじいちゃん・おばあちゃんが在園時の普段の様子を見てももらえるページになっています。保護者の方々のコミュニケーションツールとしてより充実していきたいと考えています。

それに対してなだでもご覧いただけるブログや動画は、広報の役割を持っています。地域の方や実習生などに都島第二乳児保育センターを知ってもらいたい!という思いでアップしています。

ただ、行事がメインになっているので、日常も見てほしいと考え、どのような内容をアップしていくかが今後の課題です。



新発見!!  
新たな挑戦!!

2021年



デジタル版フラッグだよ  
友乳ダイアリー

コロナ禍、保護者の方  
が園内に入れず子ども  
の姿を実際に見  
ていただけなかったため  
「毎日が保育参加」と  
題して更新回数増  
に努める

2022年

保護者専用ページ

通常のホームページに加えて、  
保護者の方のみに配信する動  
画を作成。パスワードで保護さ  
れているため、より身近に感じ  
られる動画を定期的に更新中。



まだまだこれから



2020年

つなぐろうプロジェクト

緊急事態宣言が出され  
家庭と園をつなぐ動画へと方向転



継続は力なり  
動画配信



子どもたちの日々の様子を動画にして  
保護者の方に向けて配信していた

新型コロナウイルス感染症が流行し、保護者の方が園内に入ることがなくなり、行事の中止・縮小、日々の保育さえ「日常」ではなくなりました。あれから4年が過ぎ波はあるものの、激変期がようやく落ち着き始めつつあります。

コロナ禍での保育。毎日、毎月、毎年...と試行錯誤を繰り返し、その中で見えてきた新しい発見。

「変えていいこと」

「変えてはいけないこと」

変わらないために、自分が変わっていく必要がある。世の中は、毎日のように変化していく。変わらないものを提供し続けるためには、自分を意識的に変えていかないとけないということ。

そのために「手段」を変えよう

「思い」は  
変わらない

そのために「意識」を変えよう

そのために「方法」を変えよう

いま シェア  
瞬間を共有する

発表会を終えて

～保護者感想文より～

大勢の人に見られて何か発表するという経験は1歳児に必要なのかな?と疑問ではありましたが、見守られている、緊張する場面をのりこえる、達成感というのは貴重な経験だったと思います。

主人も初めての保育園行事に参加できるととても喜んでいました。おじいちゃんおばあちゃんも行事に参加できるくらいコロナが落ち着いてほしいです。

DVDではなく、生で子どもたちの様子が見られて嬉しかったし、楽しかったです。緊張やドキドキ感が共有できるっていいなと改めて思いました。

どれだけ一緒に感動を共有できるか  
感動と一緒に共有するとき、一体感が生まれる  
一体感が生まれると、もっと距離が縮まる  
感動を共有できた人には、心を開く  
これからも、子どもたち、保護者の方と、そんな関係を築いていける園でありたい。そんな、保育者になりたい。



あんなに人見知りをする子が、大勢の前で堂々と練習の成果を発揮できていました。終わった後の満足そうな顔が忘れられません。

日々、子育てと仕事でバタバタして、ゆっくり子どもを見てあげることができないのですが、このように発表会で改めて子どもをゆっくりみることができたので、本当によかったです。

子どもたちの成長を  
保護者の方と一緒に喜びあう

園内での有観客行事が3年ぶりということもあり、保育者も子どもも、保護者の方もドキドキの発表会。当日は、本番に強い子どもたちの姿に、保育者が救われ、保護者の方も笑顔と涙があふれていました。小さいながらも緊張と戦い、それを乗り越え、たくさん褒めてもらった子どもたちの表情はとても誇らしげで、大きな成長を感じました。

そして、令和4年度は、「有観客」での開催を決定しました。

- ☆3クラス完全入替制
- ☆大人2名入場

★会場の広さ  
★できるだけ多くの方に見ていただきたい  
★長時間の密を避ける

乳児発表会  
キラキラ  
ハッピーステージ  
令和5年2月16日(木)



2021・2022年2月



無観客での動画撮影

2023年2月



3年ぶりの 有観客  
少人数でも「近くで感じる」発表会

2020年2月



制限なく、たくさんの方が入場

編集後、DVDに  
鑑賞はご家庭で...



子ども発達サポートステーション それいゆ **新発見!! 新たな挑戦!!**

心理師との発達検査や体育教室では専門的な助言をもらい、ひとり一人の発達段階に合わせた支援計画を作成し、取り組んでいます。



それぞれの立場から職種の強みを療育にいかすことができるよう、毎月クラスごとに心理師・主任・園長も入り、今の子どもに合った支援計画になっているか会議を開いています。また、その中でより子どもたちが楽しめる療育となる様に、こんなあそびをしてみよう!と新しい取り組みのアイデアも出てきます。



コロナ禍で、ここ数年はなかなか研修に十分に参加することが出来なかったのですが、先輩職員が主になり、つなぎつないで、園内研修を出来るだけ多く行い、基本的な知識や技術の向上を課題に取り組みました。また、Web研修が増え、時間的にも以前より参加しやすくなった面もありました。

たくさんの研修に参加

新人職員から子育て経験のある職員、専門職などそれぞれの強みを生かして...  
自分自身も成長できる仕事であるために、職場内の「コミュニケーション」もたいせつに



好きな活動と分かるとここにこしながら園庭やプレイルームにむかっています



ぼくらのみらいにむかって

コロナ禍の経験を大切に、**新たな取り組みにチャレンジ!**

それいゆでは初めて集団生活を送る子どもも多く、新しい環境にドキドキしながら4月が始まります。まずは私たちが信頼関係をしっかりと築き、楽しいこと、嫌なこと、苦手なこと、得意なこと、子どもたち一人ひとりの個性や気持ちを、寄り添い、そしてあそびの中から自分の思いを相手に伝えることができるよう、関わっていきます。「あそび」は成長の場であり、心身ともに発達していく大切な機会です。ただコロナ禍の3年間、子どもたちは人や自然とふれあうことが制限されることもありました。そのことに十分に配慮し考慮しながら、その中でも子どもたちが楽しく遊ぶ体験の中から、一緒に過ごす楽しさを味わい、「楽しいな」「もう一回やってみよう」を数多く感じられ、人とのつながりの中から得られる喜びを発見できるように、さまざまな工夫やアイデアを凝らしてきました。

子どもたちが「楽しいな」「もう一回やってみよう」を沢山感じられるように



朝の会で自分の順番が来ると張り切ってハイタッチ!



次に何を遊ぶのか、スケジュール写真を見て確認!



大人や友だちと楽しい経験を繰り返し、一緒に遊ぶ楽しさが生まれています

それいゆの様子をクラス会で集まって紹介できない時には動画配信し子どもたちの様子を見ていただきました。

さまざまな制限があったコロナ禍の中、それいゆは、子どもたちが安心して通園し、保護者の方たちと共に安心して過ごしていただけるように、動画の配信やブログの更新、保護者の方とのZOOM会議など、以前にはない試みもするなど試行錯誤の日々でした。これまでにない経験だったからこそ、先が見えず難しかったこともありましたが、多くの制限があったからこそ、新しいチャレンジも出来、あらためて大切なこと、そして大切にしなければならぬ事も再発見できたように思います。

初めての子育て、健診で言われたひとこと、その不安を解消できた保護者や職員との何気ない話

保護者学習会や保護者会主催の親睦会を通して

子どもへの対応の仕方など情報を発信もしています。他の保護者の話を聞いて「うちもいつか」と安心されたり、個々に持っている障がいには違いますが、これからのことを相談できる相手が見つかる機会となっています。ここでつながった縁は子どもが成人してもずっと続いていってほしい方も多いためです。

以前、保護者から聞いた話ですが、2歳の時に保健センターで発達に遅れがあることを指摘され、同じ年代のお子さんを持つ保護者に相談すると「大丈夫よ、追いつくから」といわれて、相談できない、わかってもらえないと傷ついたとおっしゃっていたことを思い出します。この世に生を受けてたった2年でこのようなことを言われた保護者は先の見通しが立たず不安でたまらなかつたと思います。

保護者との信頼関係

子どもたちの様子を連絡ノートでやり取りをしているのですが、ノートだけでは伝えきれないことは電話を掛けて悩み事などに応じたり、できるだけ安心していただけるよう子どもたちの様子をお伝えしたり、困った時の対応方法をお伝えしたりしています。

親子通園などで実際の療育を体験していただき、そこで少しお話をできる機会を持つなど、安心してそれいゆに預けていただけるように努めてまいります。



# 児童館の新施設が完成しました!



この度、都島児童館の新施設が新たに完成いたしました!中野小学校と都島小学校の子どもたちを受け入れ、令和5年4月より子どもたちの生活の場として活動をスタートいたします!  
子どもたちがいきいきと活動することのできる環境を用意し、これから頑張っていくしますので、どうぞ皆さん応援よろしくお願いたします!



令和5年新施設に移設します!

## 中野生活クラブ

### 悩み

生活クラブ間の交流が難しい

他の生活クラブと距離があり交流など連携した活動が難しい...

### そこで...

地域の子もたちとの交流や  
地域環境を活かした活動を重点的に!

### 工夫

公園で地域の子たちと  
遊べるよう、室外活動を積極的に

公園が近く、公園で地域の子もたち(児童館でない子)と一緒に遊ぶなどの活動を積極的に行った。

また、夏休みには他の生活クラブとZoomを活用してリモートでの交流なども。



外遊び中心の活動を担任が続けることで施設の外にも子どもたちの活動の場が広がるように意識しています。

## 友渕生活クラブ



長い登館経路ですが子どもたちの安全を思い自転車での見回りを実施しています。

### 悩み

登館経路の複雑さ

友渕は小学校が本校、分校に分かれており、距離も遠いので子どもたちの登館(下校中)の見守りなどが難しい...

### そこで...

施設同士で協力し合い  
子どもたちを見守る体制を作る!

### 工夫

高倉生活クラブとの連携

両施設の職員で本校、分校に分かれて見守りを行ったり、中間地点などポイントごとに職員が立つなどして子どもたちの見守りをしてきた。また、高学年は下校する時間を約束してもらうなどの声掛けも。

本校、分校の合流点など見守っています!



## 都島生活クラブ

### 悩み

人数が多く一人ひとりと  
関わる時間が少ない

子どもの人数が毎年60~70人の生活クラブで部屋も多く、それぞれの対応があるためどうしても一人ひとりと関わる時間が少なくなってしまう...

### そこで...

マンパワーだけでなく環境を  
変える工夫を!施設内を大改造!

### 工夫

子どもたちだけでも  
活動できる環境を

大人が付ききりでなくとも子ども自身で考え、活動することのできる環境を準備。それによって職員のフットワークも軽くなり多くの子どもたちと関わるできるようになった。

工作のスペースは工作に使いたい物がまとめられているのですぐに作り出せます。



遊びの予約表や工作スペースで子どもたち同士でも活動が進行できるようにしています。

## 高倉生活クラブ

### 悩み

子どもたちの環境の大きな変化

この数年で移設や御幸生活クラブとの統合など環境に大きな変化が続いた。違う小学校同士での流行や遊び、特色の違いが混ざり合った施設に。

### そこで...

まずは子どもたちがスムーズに遊びに向かえるように物の場所を整理!

### 工夫

子どもたち主体での  
活動しやすい施設環境を目指す

見通しの良いレイアウトと様々な活動ブースを準備。また子どもたちの流行りに合わせた活動を広げ、そうでないものは削除することで活動スペースを調整。異なる小学校同士の交流の中で子どもたちが主体となり活動しやすい施設環境を作り活動の幅を広げた。



誰がどこで何をしているのかすぐ分かる備品配置。

色は違えど想いは同じ。



コロナ拡大防止対策としてこれまで行ってきた縦割り保育や異年齢交流も制限され、淋しそうにしていた子どもたち。年少の子どもたちにとっては、お世話をしてくれる「おにいちゃん」「おねえちゃん」に憧れの気持ちを持った真似をしてみたいと感じたりすることが学びや目標となり、年長の子どもたちにとっては思いやりや優しさを育む大切な時間でした。

コロナ禍が落ち着くにつれ、徐々に制限も緩和され、保育の幅が広がりがつつある今、これまで大切にしていた保育をしっかりと守りながら、この一年間で得た貴重な教訓や経験、新たな発見を取り入れ、ぬちどう宝(なによりも命が宝である)子どもたちの健康第一に考え、感染防止のためにこれまで行ってきた手洗いの習慣を継続しながら、家庭との連携を密にして、子どもたちが元気に笑顔で過ごせる保育を大切に、これからも職員一同、力を合わせて取り組んでいきます。



地域交流や文化の伝承

これまで大切にしてきた地域の方々との交流を行うことも難しくなり、また子どもたちが日々暮らしの中で沖縄の自然や文化に触れ、どう子どもたちに伝えていくかということも課題となりました。

コロナ禍の3年間、さまざまな行事を見直し、中止にせざるを得なくなりました。そのため出来るだけ保護者や地域の方々に園の様子を知っていただくうと、ホームページで行事やクラスの様子を積極的にアップするようにしました。いままでは写真だけのブログでしたが、動画をアップすることで、園の様子が一段と保護者の方にイメージしていただけるよう工夫しました。保護者からは「いつも楽しみにしています」「子どもの園での姿が目に見えます」など、うれしい声をいただき、あらためて厳しい制限下でも私たちに出来ることを考え、また多様な方法でコミュニケーションや情報発信する大切さ面白さを確認できたように思います。

今後も、保育として大切なこと、ウチナーンチュとして大切にしなければならぬことを見つめ直し、職員がさまざまな知恵やアイデアを出し合いながら新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

子どもたちがみんなが笑顔になる保育を考えよう!



沖縄の

# うちなぬ宝の笑顔は

子どもたち



みんなで園周辺の地図を作りました

## 渡保育

わくわくドキドキ! ちむどんどん

Let's Go! スタンプラリー



石畳などの数多くの文化遺産に囲まれているという生活を生き、地域や文化遺産を巡るスタンプラリーを開催、子どもたちに地域や沖縄の文化に楽しく関心を持ってもらえるよう心がけました。

## 松島保育

ウメーシでごちそう

くわっちーさびら



みんな大好き! 沖縄そば

沖縄のお箸のことを方言で「ウメーシ」といいます。中国の影響を強く受けていて、「赤」は「太陽」「黄」は「月」を意味するようです。

沖縄の誇る素晴らしい伝統的な行事や郷土料理。地域で、家庭で母からその子へと、代々大切に守り伝えた沖縄の独自の文化を少しでも行事や食育の中で生かしたいと改めて感じた3年間でした。



令和5年度 発表会

1年間を通しての行事は園児や保護者にとって、とても楽しみにしているもので、子どもたちの成長のきっかけにもなるものだと考えます。コロナ禍の中での行事は、人数制限(保護者の方1~2名)や取り組み方、時間の工夫をしながら行い、成長が見られ、みんな笑顔になりました。



毎年恒例の行事ムーチーづくり

園内菜園でとれたネギを使いヒラヤチーづくり

信頼!!  
つながり!!

訪問介護  
ひーぐるま



特別養護老人ホーム  
ひまわりの郷

## 感染防止対策と共に、人と人との絆、 つながりをどう確保するか

コロナ禍から既に4年目。ひまわりの郷では3日に1回の抗原検査、月2回のPCR検査を途切れなく行い、手指衛生や消毒、個人防護具を基本的に徹底した感染防止対策を行ってきました。この間、施設内での感染防止とともに私たちが大切だと考えて来たのは、施設を感染防止のために閉ざされた空間とするのではなく、人と人が触れ合い、気持ちや心が通い合う日常の住み慣れた暮らしにどう近づけるか、どう維持していくかということでした。

コロナの影響で入居者は外出する機会が減り、施設という限られた空間のみで過ごすことが多くなります。その中で刺激ある日常生活を送っていたためにどうすればよいかとの検討会を行いました。1階のカフェの利用やテラス内で育てている野菜や果物の収穫を職員と一緒に行いました。また、

恒例の行事「秋祭り」をフロアごとではなく、1階で盛大に行い、外出をせずとも大勢の人たちと触れ合う機会の提供ができたのではと思っています。

もう一つ大切にしてきたことにご家族との「面会」があります。コロナ禍の現状では面会方法の原則は距離を保つこと。パーティション越しに30分間という限られた時間の中で面会をしていただくことになっていきます。しかし、様々な制限下であれ、ご家族や親しい方とのコミュニケーション、関係維持のためには「面会」はとても大切な事だと考え、出来る限り行うよう努めてきました。

来年度はコロナ禍の状況にもよりますが、ご家族様にも参加していただき、以前のような地域全体に向けた大きな行事が出来ればと思っています。夏なら花火の鑑賞会を大きなスクリーンで上映を行うなど、一年通して少しでも入居者様が楽しめる環境づくりを行っていききたいと思えます。またご家族には、入居者の日ごろの様子を写真に収め、広報誌として郵送し、入居者様との繋がりを大切に参りました。今後も、ご家族様、入居者様との絆を大切にしていきたいと思えます。



## 私たちが大切だと考えてきたこと

コロナ禍ももう4年になりました。訪問介護を始めた時には、世間ではコロナの恐怖がだんだんと近づいていた時でしたので、コロナと一緒に並走しているような時間を過ごしてきました。自ら自身がコロナに感染してはいけないと飲み会や年に数回の学生時代の仲間との集まりも無くなり、人と接する機会が極端に少なくなりました。

もちろん利用者の方々も同様です。訪問に行つた際、「友だちとも会わなくなつた」「離れて住んでいる家族は来れなくなつた」というようなこともよく耳にしました。そんな状況に、「コロナやから仕方がない」と無理に納得されている利用者の姿がありました。これまでの人生

で培ってきた人間関係がいつぱんに無くなってしまったコロナ禍。この事態が済んだ後、それがどのくらい修復できるのでしょうか。

訪問サービスはご利用者とその暮らしに直接関わります。だからこそ人と人とのつながりを大事にしてきました。人と会うことが難しくなつた状況だからこそ、定期的な基盤支援としてサービスをただ提供するだけではなく、利用者の孤立した状況を防ぎ、生きがいを喪失したり、生活に不安を感じるようなないように、何気ない声掛けや会話を大切にし、高齢者が抱きやすい日常の「孤独」を埋める一助になればと考えてきました。

## 法人の高齢者三施設合同で行った 初任者研修

～連携をより密接にして地域貢献を～



本年度は、ひまわりの郷だけではなく、デイサービス、訪問介護ひーぐるまと合同で、「初任者研修」を行いました。参加者はみんな真剣に講義を受けられ、全員無事合格。法人の高齢者福祉の力になつていただいています。今後も法人三施設の繋がりを大切にし、お互いに協力し合うことで、都島地域との関わりもいっそう密に深まっていくなかにはないかと思えます。

## これからの課題、 そして取り組むべきテーマ

ひまわりの郷

介護業界全体を見ると、やはり人材不足が問題であり、新しく入ってきた職員も、長く続かず、辞めてしまう事が多く、ベテランスタッフと新人との間の中間職が少ない現状となっています。長く続けてもらうためには、スタッフのモチベーションの向上や、悩みや不安があれば、すぐに相談できるような窓口や、職場づくりが大切だと思います。また、内部研修や外部研修を充実させる事により、スタッフの知識や技術の向上を目指し、入居者へ質の良いサービス提供が出来る施設として、ひまわりの郷が見本となる形になればよいかと思えます。また地域の方々に向けた、介護教室の開催や、高齢者の憩いのスペースとして、1階を開放したり、場合によっては、ひまわりの郷から地域の方へ、お困りのことがないか確認出来れば、ひまわりの郷だけではなく、都島友の会全体の評価にも繋がると思えます。

## 一人でも多く一緒に働いてくれる方を!

おかげさまで都島友の会という名前は地域に根付いています。そこでひーぐるまが3年たった今、さらなる訪問介護の進展のためにも一人でも多くの一緒に働いていただける方を見つけていきたいと考えています。

登録されている訪問介護員の方は直行直帰の働き方が主になるので、管理者やサービス提供責任者と接する機会が少なく、申し送り事項や引継ぎ事項、問題提起などコミュニケーションや関係性を築きにくい状況があります。限られた時間や機会の中でよくに相談や報告ができるよう、スマホやライン等を活用していききたいと思います。



# 「絵の本ひろば」を開設

子どもから大人まで、絵本や図鑑、写真集など自分が気になった本を自由に手に取り、自分のペースで自分時間で楽しめる場所、「絵の本ひろば」を開設しました。長年、法人の職員研修でお世話になった“絵本あれこれ研究家”加藤啓子先生のご指導の下、研修センターの2階に、約300冊をズラッと並べてみました。



「絵の本ひろば」は、おとな、子ども、関係なく絵の本を楽しむ場所。絵の本を通して気持ちをほぐす場所。お互いにいい距離感で自由に選んで楽しめる場所。「ちょっとつかれたなあ」が、なんかスーッとされる場所。自分でふと気になった「絵の本」を手に取って開いてみてください。「絵の本」を見ながら本の愉しさをぜひ実感してください。

## カフェひだまり 4月にオープン!



法人の地域貢献活動の一環として、「コミュニティカフェ」を4月よりオープンします。ティータム、地域の子育て家庭の親子や高齢者が気軽にお茶を飲みながら手作りパイやクッキーをおともに、談笑したり、また「ミック（漫画）や絵本を展示閲覧できる「癒しのスペース」を考えています。週1〜2回、ひまわりネット1階（旧ひだまり食堂）にて予定しています。

### 11ね物産展売上金の寄附

毎年3月11日、研修センターで行ってきた「11ね!物産展」の2年間の売上76,712円をトルコ地震義援金として大阪府を通して寄附いたしました。ありがとうございました。

信頼!! かな つながり!!



趣味の園芸も



手作りおやつで乾杯!



いつまでも美しくネイルのサービス!



白熱のピンポン?



お楽しみのカラオケ!



2月1日のおつたち御膳



大浴場で心もカラダもリフレッシュ!



ごちそうさまでした!

## 地域に開かれた地域福祉の拠点に

「友洲地域在宅サービスステーションひまわり」はご利用者の方とのふれあいやお喋り、その場で手作りする温かい料理はもちろん、ゆったりとできる入浴、四季の彩りを楽しむあそびや散策など、心も体もあたたまる一日を過ごしていただけます。ひまわりの施設理念に、「地域福祉の拠点となる施設づくり」との一文があります。この理念を進展するため、私たちは「地域の人々が自然に集う仕組みを!」と考え、最近新たなサービスを始めました。それが入浴サービスです。ひまわりのセールスポイントでもある大浴場を地域の方にも広く開放し利用してもらおうとするサービスです。具体的には、**入浴とお食事がセットになって5,000円で利用**ができるというものです。また今年度よりスタートした「おつたちメニュー」というものもあります。**毎月1日に、『おつたち御膳(コーヒー付き)』を3,000円で提供**するというサービスです。ここにも毎月、地域の方が参加してください、さながら地域のサロンのようになっています。今後は、小さな子どもたちや地域の小学生たちがあそびスペースとして訪れたり、私たちの持つ専門性を生かして、小・中・高校への訪問など活動範囲を広げ福祉教育の一助として次世代へつなげる架け橋でありたいと思っています。これからも地域と施設の共生を目指し、職員一人一人が地域の中の一員である意識し、地域福祉の拠点となることをテーマに、地域の方々に「友洲地域にひまわりあり!」と思っていただけるような施設を目指してまいります。



本部からの報告

# 令和4年度～5年度

本部事務局長 寄瀬 博光



全卒園児と保護者が参加した卒園式

## コロナ禍の中にあつて

新型コロナウイルスの感染法上の位置付けは、令和5年5月8日に2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類に移行されます。コロナ禍も3年目に突入した令和4年は、年明け早々から第6波が押し寄せ、市中感染や家族感染が急拡大しました。6月になるとやや落着きを見せましたが、7月から第7波、11月からは8波と、新規患者の増減を繰り返しました。このような中、法人の児童・高齢各施設は、保護者・利用者家族のご協力をいただきながら、安全安心の施設運営を行いました。

児童施設の発表会は、オンライン配信やCDで園児の様子をお伝えしてきましたが、令和4年度は、3年ぶりに会場で保護者の皆様にご覧いただくことができ、我が子の成長した姿に感動されました。卒園式も感染防止のため、クラス毎の開催でしたが、令和5年春の卒園式は、全卒園児と保護者の参加による、厳かで微笑ましい式となり、素晴らしい門出となりました。令和5年度の保育教育・諸行事は、安全に配慮しながら、徐々にコロナ禍前に戻していくこととしています。家族との面会や、地域の皆さんの憩い・交流の場として設置している特別養護老人ホームひまわりの郷の「カフェテリアひまわり」も、令和5年春から利用を再開します。

## 都島児童館新建物完成

放課後児童健全育成事業（学童）の再編にあたり、拠点施設となる都島児童館「ぼくらの家北都」が、令和5年2月、幼保連携型認定こども園都島児童センター隣接地に完成しました。鉄骨造3階建て延床面積は214.40㎡。都島児童館は、平成25年の都島児童センター新園舎の建替に伴い、法人が所有する近隣の福祉ビル内に移転していましたが、約10年ぶりに、発祥の地に戻ることとなりました。

## 創立90周年感謝の集いを開催

令和3年3月1日、法人創立90周年を迎えた都島友の会は、令和3年秋、令和4年2月に「創立90周年感謝の集い」の開催を準備しましたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大により、中止の已む無きに至っていました。100周年に向けスタートした令和4年春の叙勲で、当法人の渡久地理事長が瑞宝双光章を受章しました。理事長の功績とともに、90周年という節目を迎えた法人事業にご評価いただいたものであり、法人にとりまして誠に名誉なことです。改めて皆様方のご指導とご支援に感謝申し上げますため、創立90周年のお祝いと受章のお祝いを兼ね、令和4年7月30日、帝国ホテル大阪で「お祝いと感謝の集い」を開催しました。

7月になり、新型コロナウイルス陽性者が急増する中でありましたが、永年にわたりお世話になっている皆様約150名のご出席をいただきました。式典とともに、DVDで法人施設と各園児の演舞を紹介。また職員有志により沖繩のエイサー・ダンスを披露しました。100周年に向け、今後とも都島友の会が、地域の皆様に愛され、必要とされる法人であり続けるため、より一層地域福祉サービスの充実に取組む決意を新たにしました。

## 介護職員初任者研修

介護職員の人材不足が続いています。特別養護老人ホームひまわりの郷でも、現在、外国籍の介護職員（正規5名・非常勤3名）が勤務しています。今後ますます人材確保が厳しくなることが予測されるため、自前養成として、令和4年秋に、介護職員初任者研修を開講しました。6名が修了し、内1名が正規職員としてひまわりの郷に採用されました。今後、介護職員初任者研修・実務者研修を3年に1度程度

令和5年度、中野生活クラブが新建物内に移転し業務を開始します。友測生活クラブは、法人の元職員が設立した一般社団法人が運営し、令和5年度は、都島I・II、高倉、中野の4生活クラブで放課後児童健全育成事業を実施することとしています。

## あやなす荘解体撤去・福祉ビル外壁改修

1階が都島乳児保育センター（旧園舎）、2～4階が住宅「あやなす荘」として、令和2年まで使用していた建物（RC構造4階建 延床面積1995.45㎡）の解体撤去工事と、同建物の北側の第二乳児保育センターが入る福祉ビル（RC構造4階建 延床面積2349.65㎡）南面の外壁改修工事の準備を進めていました。令和4年9月から本格的に工事に着手し、令和5年2月末に完了しました。あやなす荘の跡地利用計画が確定するまでの間、敷地は運動場として利用されます。



## 空調設備の更新

経年劣化したデイスービスひまわりのガスヒートポンプによる空調設備を、一般財団法人環境共創イニシアチブからの「先進的省エネルギー投資促進事業補助金」の交付を受け、令和4年11月に更新。また、都島友測乳児保育センターでは、令和3年度の3階保育室の機器更新に引き続き、令和4年12月、20年近く使用してきた2階の厨房・保育室のガスヒートポンプによる空調設備を更新、空調能力を向上させました。

のサイクルで実施し、内部から介護福祉士を作り出す体制をつくることにしています。

## 人材確保と定着に向けて

保育施設数の増加とともに、コロナ禍の中で養成校学生の就職活動の形態も従来とは異なり、令和4年度の人材確保は困難を極め、令和5年4月には、保育職員12名、介護職員3名の採用となりました。

深刻化する保育士不足に対応し、令和5年度は就職活動中の学生に分かりやすく、気軽にアクセスできるホームページ及びツールを構築。就職フェアの参加及び施設見学会の開催、養成校への訪問、実習生への働きかけなど、積極的なリクルート活動を進めます。併せて中堅職員の定着と離職防止に努めています。

さて令和5年度の予算及び事業計画が、令和5年3月に開催された理事会、評議員会で議決され、新年度がスタートしました。法人本部・各施設では、この事業計画・予算に沿って、地域福祉サービスに取組んでまいります。

## 謹んでご冥福をお祈りします

永年にわたり、法人役員として運営にご尽力をいただいた次の方々が、令和4年ご逝去されました。改めて深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

- 三宅 理之氏(89歳) 3月 山野 謹五郎氏(90歳) 1月
- 門脇 光也氏(87歳) 12月 山本 才司氏(58歳) 11月



社会福祉法人都島友の会創立90周年 渡久地理事長叙勲のお祝いと感謝の集い



渡久地理事長 叙勲のお祝いと感謝の集い

法人ではコロナ禍の感染拡大の影響で、令和3年に開催予定の創立90周年記念式典を延期してきましたが、令和4年春の叙勲で当法人の渡久地理事長が瑞宝双光章を受章の栄に浴し、改めて地域の方々をはじめ、皆様方のご指導とご支援に感謝申し上げます。創立90周年のお祝いと受章のお祝いを兼ね、令和4年7月30日(土)、帝国ホテルで、「社会福祉法人都島友の会 渡久地理事長 叙勲のお祝いと感謝の集い」を開催しました。

「お祝いと感謝の集い」では式典とともに、法人紹介映像や、職員による沖縄伝統芸のエイサー、ダンスを披露し、会場も大いに盛り上がりました。



帝国ホテル会場前室

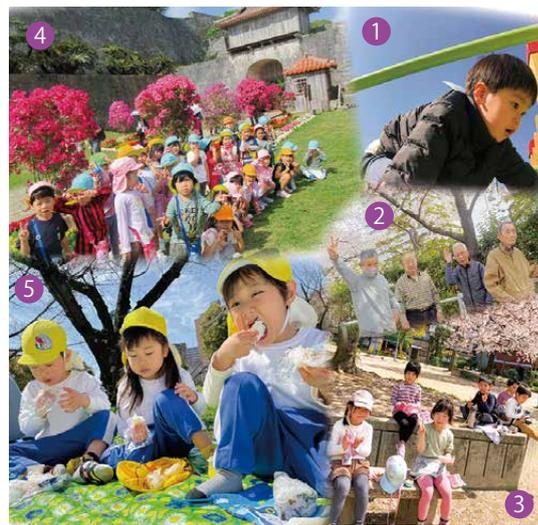


都島友の会創立90周年  
渡久地理事長叙勲のお祝いと感謝の集い



今号の表紙

- ① こども発達サポートステーション それいゆ
- ② 友渕地域在宅サービスステーション ひまわり
- ③ 都島児童館
- ④ 沖縄 渡保保育園
- ⑤ 都島友渕乳児保育センター



編集後記

令和5年3月10日からマスク着用は個人の判断となり、5月8日より、新型コロナウイルス感染症は5類と引き上げられることが決定しました。コロナ禍で当たり前だったことが当たり前ではなくなり、生活様式も変わりました。何が正解なのか、対策はどうするべきか、未知の感染症を前に、私たち福祉施設従事者は利用者の方々や園児に「いま」できることは何かを考えました。

現在、世間は少しずつではありますが以前の姿に戻ろうとしています。私たちは改めて、あらゆる感染症に気を付けながらも、社会の動向に目を向けながら職員一同、一致団結して教育・保育・介護に力を注いでいきたいと思えます。

ひがみや児童センター 林 大介